



## 【第1回】

第9期 室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画  
策定協議会資料

令和5年8月31日（木）15時～

# 1. 計画の策定にあたって

## 1. 計画策定の趣旨

---

わが国では、令和5年5月時点の推計人口において、65歳以上の人口は3,621万人を超えており、国民の約4人に1人が高齢者となっています。高齢者数は令和24年頃まで増加し、その後も、75歳以上の人口割合が上昇し続けることが予想されています。

第9期介護保険事業計画期間内（令和6年度～令和8年度）である令和7年度には、団塊世代の全てが75歳以上の後期高齢者となり、令和22年度には団塊ジュニア世代が65歳以上の前期高齢者となります。我が国の総人口に占める高齢化率は今後さらに進むことが見込まれ、現役世代が急減して社会保障を支える担い手不足が深刻となることに加え、85歳以上人口の急速な増加により、要介護認定率の高まりや認知症高齢者の一層の増加が見込まれます。

そのため、地域の実情に応じて、介護サービスの基盤を整備するとともに、地域包括ケアシステムの深化・推進を図り、介護人材の確保や介護現場の生産性の向上を進めるなどの具体的な方策を定めることが重要となっています。また、高齢者の単身世帯や85歳以上人口が増加する中で、医療と介護の双方のサービス需要がさらに増加し、多様化していくことが想定され、医療・介護連携の必要性もさらに高まってきます。

室蘭市では、保健・福祉に関わるニーズに対応するため令和3年3月に策定した「第8期室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」が令和5年度で計画終了することから、「第9期室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」（以下、「本計画」といいます。）を策定します。

## 2. 計画の位置づけ

---

本計画は高齢者施策を総合的に推進するため、「市町村老人福祉計画」と「市町村介護保険事業計画」を一体的に策定するものです。

「高齢者保健福祉計画」は老人福祉法第20条の8第1項に規定する市町村老人福祉計画であり、介護サービス需要のさらなる増加・多様化が見込まれるため、地域の特性に応じた介護サービス提供体制の整備等や、介護予防・健康づくりの取り組みを強化し、福祉の向上を図るための計画です。

「介護保険事業計画」は、介護保険法第117条の規定に基づき、介護保険給付サービス量の見込みとその確保策、制度の円滑な実施に向けた取り組みの内容を定める計画です。

### 3. 計画期間

本計画は、令和6年度を初年度とし、令和8年度を目標年度とする3年の計画です。

また、団塊世代が75歳に達する令和7年度、団塊ジュニア世代が65歳に達する令和22年度を見据え、本計画の最終年度にあたる令和8年度には見直しを行い、第10期計画を策定します。

#### ▼計画期間

令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	~	令和22年度 (2040)	
第9期計画（本計画）			第10期計画					
	中長期的な 視点 (団塊世代が 75歳に達す る時期)	見直し			見直し		長期的な 視点 (団塊ジュニア 世代が65歳に 達する時期)	

### 4. 計画の推進体制

計画の進捗状況については、「室蘭市保健福祉推進審議会」に報告し、分析・評価を行います。

計画を効果的かつ実効性のあるものとするため、計画（PLAN）・実行（DO）・評価（CHECK）・改善（ACTION）のPDCAサイクルにより管理していきます。また、社会状況の変化や新たな国の施策等の動向に柔軟に対応しながら、必要に応じて見直しを行います。

また、計画の推進にあたっては庁内関係部局や関係行政機関、保健・医療・福祉の関係団体及び介護サービス事業者や地域団体、市民活動団体等との連携強化に努めます。

## 2. 高齢者の状況

### 1. 高齢者の現状と将来推計

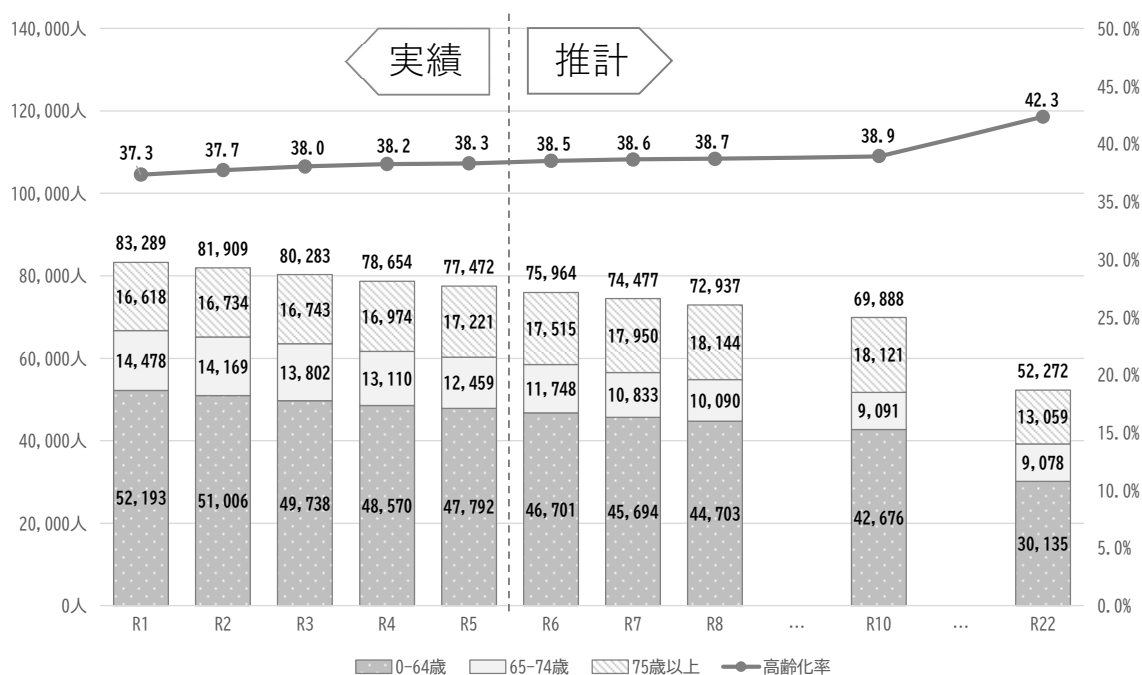
#### (1) 人口と高齢化率の推移

室蘭市の令和4年9月末現在の人口は78,654人、65歳以上の高齢者人口は30,084人となっており、高齢化率（人口に占める高齢者人口の割合）は38.2%となっています。高齢化率は平成23年に30%を超えてから、継続的に上昇を続けています。

高齢者人口の内訳についてみると、平成28年9月末に75歳以上の後期高齢者人口が65～74歳の前期高齢者人口を上回ってから、その差は大きくなっています。

人口減少と高齢化の傾向は今後も続くものと考えられ、団塊世代が75歳以上となる令和7年には高齢者人口が28,783人、団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22年には22,137人となり、高齢化率が42.3%となることが予想されます。

#### ▼ 年齢3区分別人口と高齢化率の推移と推計



資料：住民基本台帳（各年9月末、令和5年は3月末）

単位：人

	実績値					第9期推計値			将来値	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R10	R22
総人口	83,289	81,909	80,283	78,654	77,472	75,964	74,477	72,937	69,888	52,272
高齢者数	31,096	30,903	30,545	30,084	29,680	29,263	28,783	28,234	27,212	22,137
	75歳以上	16,618	16,734	16,743	16,974	17,221	17,515	17,950	18,144	13,059
	65-74歳	14,478	14,169	13,802	13,110	12,459	11,748	10,833	10,090	9,091
0-64歳	52,193	51,006	49,738	48,570	47,792	46,701	45,694	44,703	42,676	30,135

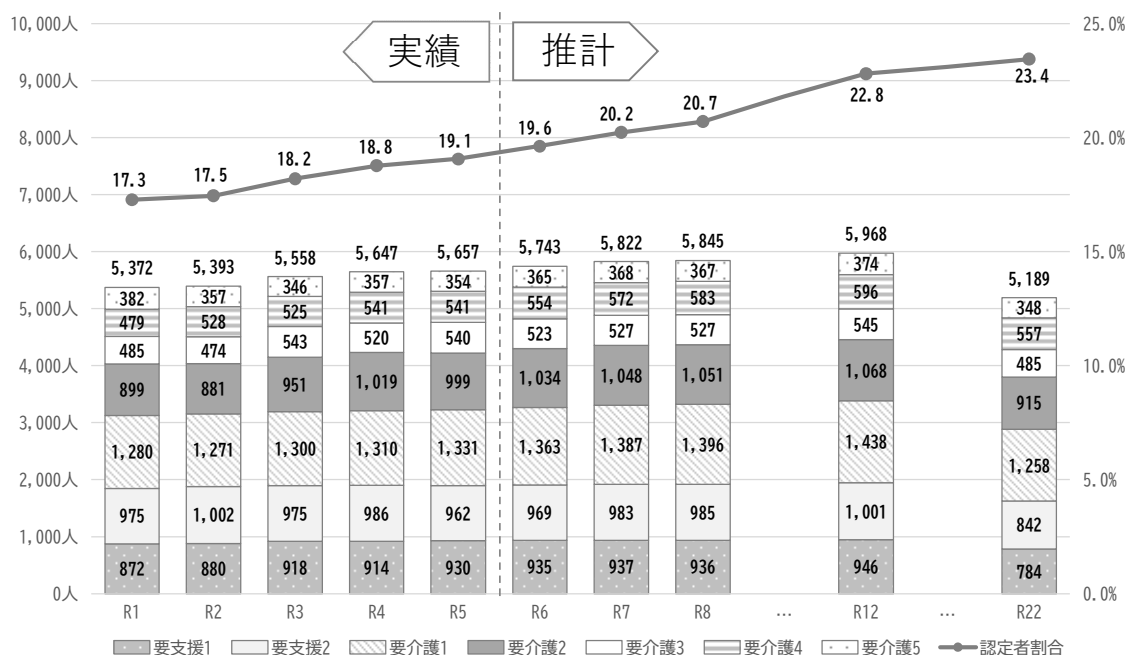
## 2. 要介護認定の現状と将来推計

### (1) 要介護認定者数の推移

認定者数は、令和2年まで概ね横ばいが続いていましたが、令和3年9月末以降は増加しています。

将来の認定者数を推計した結果、令和8年には5,845人、令和12年には5,968人、令和22年には5,189人の認定者数が見込まれます。

#### ▼ 要支援・要介護者数と認定者割合の推移と推計



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（見える化システムより取得、各年9月末、令和5年は3月末）

単位：人

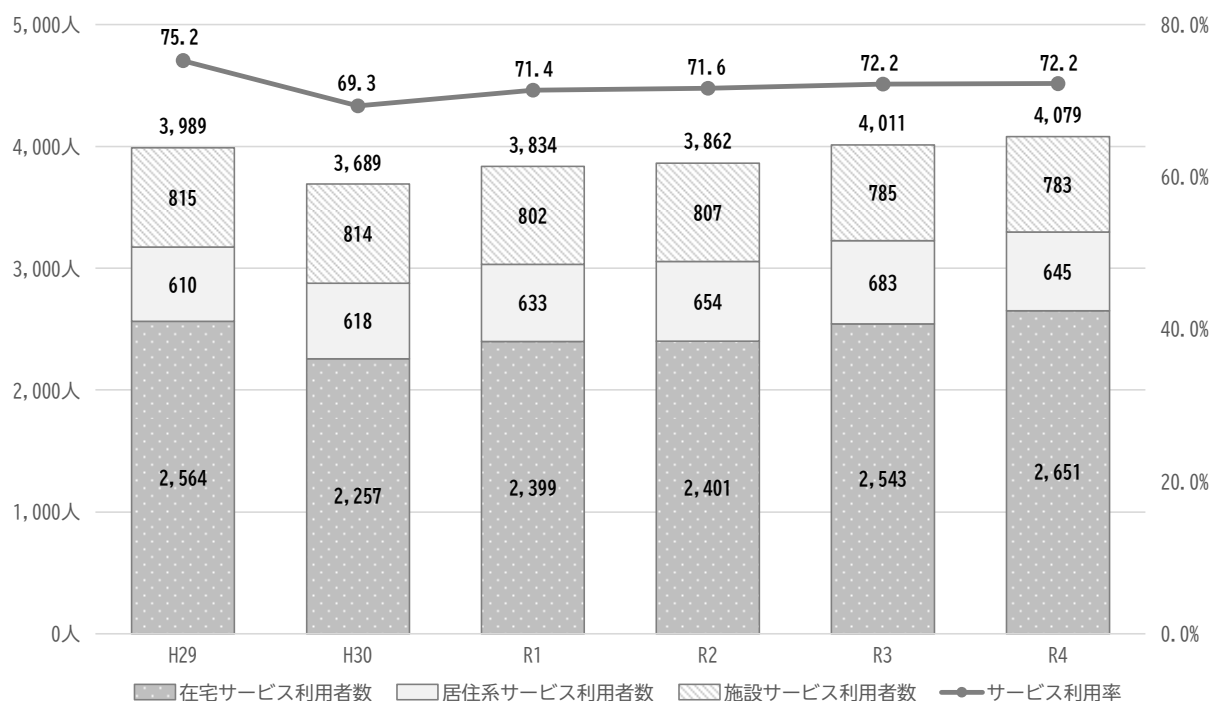
	実績値					第9期推計値			将来値	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R12	R22
認定者合計（第1号）	5,372	5,393	5,558	5,647	5,657	5,743	5,822	5,845	5,968	5,189
要介護5	382	357	346	357	354	365	368	367	374	348
要介護4	479	528	525	541	541	554	572	583	596	557
要介護3	485	474	543	520	540	523	527	527	545	485
要介護2	899	881	951	1,019	999	1,034	1,048	1,051	1,068	915
要介護1	1,280	1,271	1,300	1,310	1,331	1,363	1,387	1,396	1,438	1,258
要支援2	975	1,002	975	986	962	969	983	985	1,001	842
要支援1	872	880	918	914	930	935	937	936	946	784
65歳以上認定者割合	17.3	17.5	18.2	18.8	19.1	19.6	20.2	20.7	22.8	23.4
65歳以上人口	31,096	30,903	30,545	30,084	29,680	29,263	28,783	28,234	26,172	22,137

※認定者割合 = 認定者合計（第1号） / 65歳以上人口

### 3. 介護サービス等の状況

介護サービスの利用者数合計は令和4年9月末の時点で4,079人となっており、サービス利用率と共に令和元年以降増加傾向となっています。施設系サービスの利用者数は減少している一方、在宅サービスと居住系サービスの利用者数は増加傾向となっています。

#### ▼ 介護サービス利用者数の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（見える化システムより取得、各年9月末）

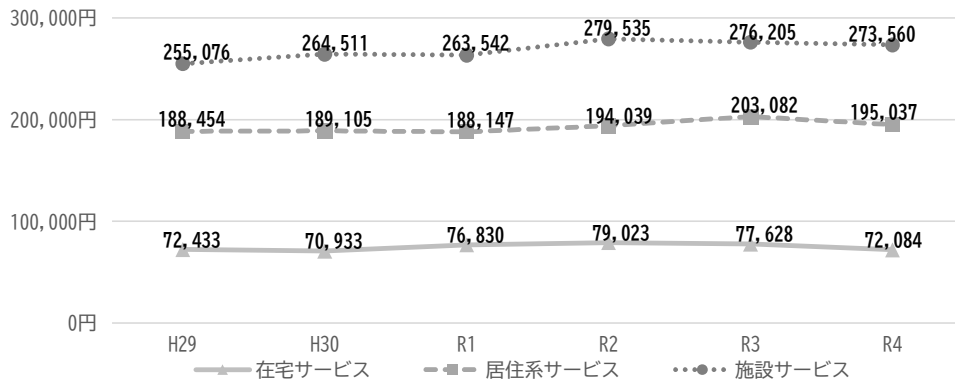
単位：人

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
サービス利用率	75.2	69.3	71.4	71.6	72.2	72.2
利用者数合計	3,989	3,689	3,834	3,862	4,011	4,079
施設サービス利用者数	815	814	802	807	785	783
居住系サービス利用者数	610	618	633	654	683	645
在宅系サービス利用者数	2,564	2,257	2,399	2,401	2,543	2,651
認定者合計	5,301	5,323	5,372	5,393	5,558	5,647

※施設サービスとは、介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護医療院・介護療養型医療施設を指します。居住系サービスとは、特定施設入居者生活介護・認知症対応型共同生活介護・地域密着型特定施設入居者生活介護・地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護を指します。

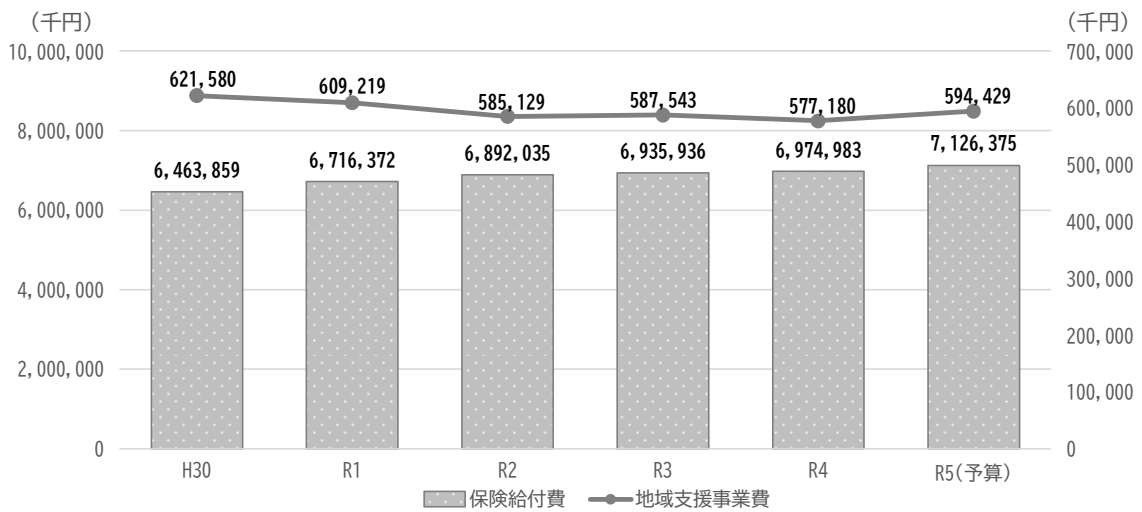
※サービス利用率は、利用者数合計÷認定者数で算出。

### ▼ 受給者一人あたり給付月額額の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（見える化システムより取得、各年9月末）

### ▼ 保険給付費と地域支援事業費の推移



資料：室蘭市

### ▼ 計画値との比較

単位：千円、%

	R3			R4			R5		
	計画	実績	対計画率	計画	実績	対計画率	計画	予算	対計画率
保険給付費	6,881,627	6,935,932	100.79	6,950,173	6,974,981	100.36	7,059,404	7,126,375	100.95
介護サービス事業費	6,125,027	6,175,427	100.82	6,218,683	6,239,888	100.34	6,329,821	6,383,168	100.84
介護予防サービス事業費	313,273	327,663	104.59	311,504	324,969	104.32	305,735	336,130	109.94
特定入所者介護サービス等費	229,621	219,607	95.64	205,051	190,109	92.71	206,879	194,099	93.82
高額介護サービス等費	207,888	206,915	99.53	209,175	213,502	102.07	211,266	206,377	97.69
審査支払手数料	5,818	6,320	108.63	5,760	6,513	113.07	5,703	6,601	115.75
地域支援事業費	609,834	579,523	95.03	619,170	570,232	92.10	628,717	587,453	93.44
介護予防・日常生活支援総合事業費	476,083	449,291	94.37	485,419	438,799	90.40	494,966	453,412	91.60
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業	106,409	104,427	98.14	106,409	105,311	98.97	106,409	106,946	100.50
包括的支援事業費(社会保障充実分)	27,342	25,805	94.38	27,342	26,122	95.54	27,342	27,095	99.10

※千円以下切り捨てのため、実際の数値とは誤差があります。

出典：室蘭市



## 4. 施策の取組成果と課題

第8期計画では、「介護予防・健康づくりの習慣化に向けて」、「介護保険サービスの安定と充実に向けて」、「地域での支え合いづくりに向けて」、「認知症との共生と予防に向けて」、「安心できる生活環境に向けて」の5つの施策を進めており、施策毎の主な取組成果と課題は次のとおりです。

### (1) 介護予防・健康づくりの習慣化に向けて

人生100年時代を見据え、毎日の生活の中での介護予防・健康づくりを推進する習慣化に着目し、事業を実施してきました。

#### ▼ 平均余命と平均自立期間

	平均余命	平均自立期間	差
男性	79.5	78.6	0.9
女性	86.3	83.9	2.4

KDB 帳票 S21\_001-地域の全体像の把握令和4年度累計

#### ▼ 保健・介護一体的実施推進事業

	フレイル質問票	個別支援該当者数
延実施人数	605人	43人

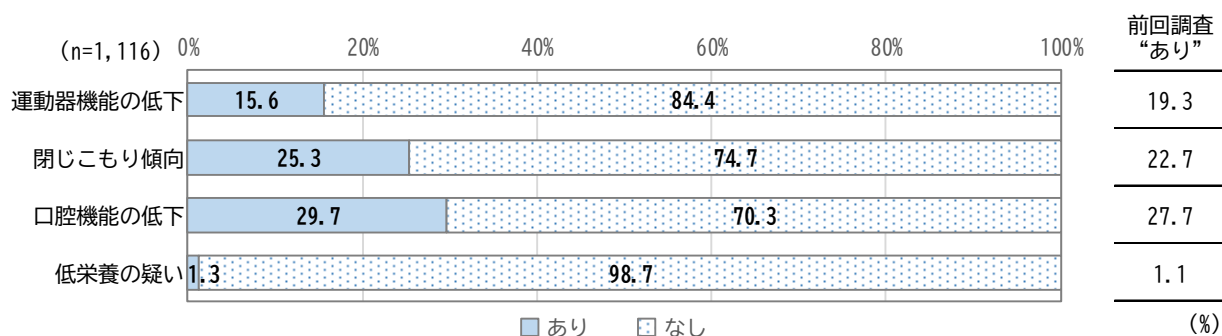
えみなメイトでの実施数令和3・4年度累計

#### ▼ えみなメイト

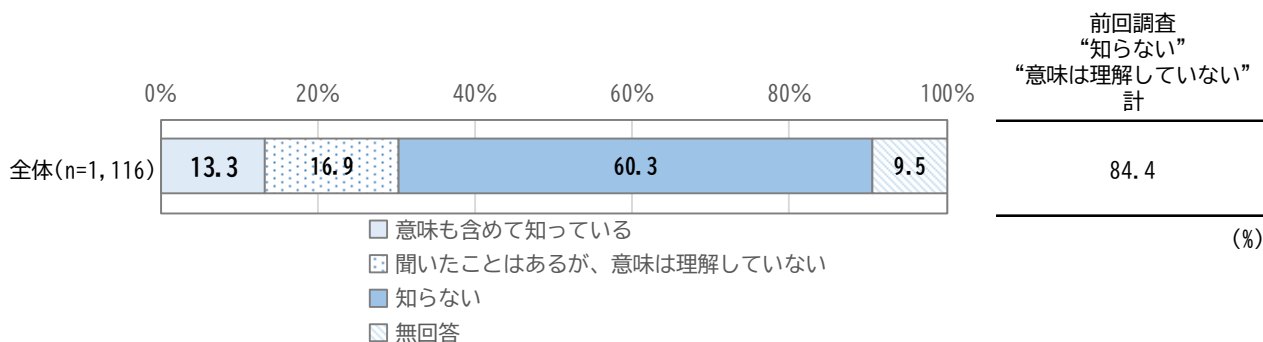
	R5 年度目標数	R5 年度見込	達成状況
実施会場	26 会場	26 会場	★★★★★
延参加人数	5,100 人	3,300 人	★★★★★

#### ▼ アンケート結果

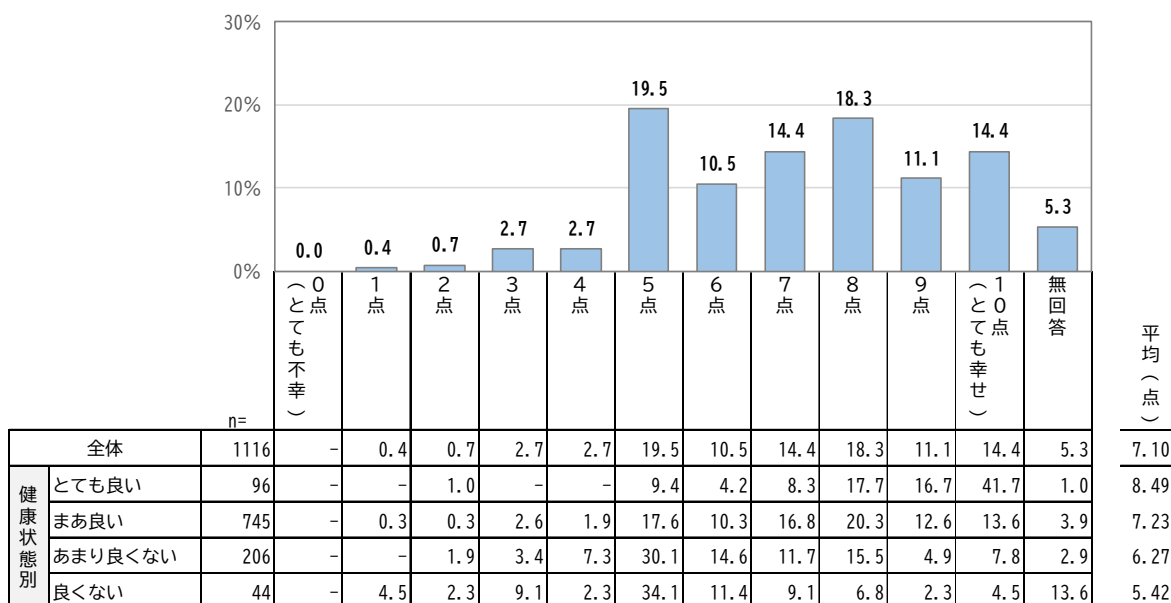
##### ○各種判定について



## ○フレイルの認知度



## ○健康状態と幸福度と関係



### 【成果と課題】

- ▶ えみなメイトの会場数は維持していますが、新型コロナウイルスの影響で参加数が減少したまま回復していません。継続して事業の周知を行っていきます。
- ▶ 「フレイル」について積極的に周知をしてきましたが、知らない高齢者は約8割を占めている現状です。えみなメイトの参加者にフレイル質問票を実施し、個別支援該当者に保健師・管理栄養士による保健指導を実施しました。相談希望者は少ない状況ですが、ハイリスク者には電話や訪問等による積極的な支援が必要です。
- ▶ 地域包括支援センターの協力を得て、医療や介護保険の利用が無い健康状態不明者の状況把握を行ったところ、介護保険サービスや医療機関受診などの支援に繋がるケースがありました。特にひとり暮らしの人は、周囲が気づきにくく適切な支援が受けられない事があるため、継続して取り組む必要があります。
- ▶ 健康状態が良いほど、幸福度が高いという相関関係が見られます。高齢期には慢性的な疾病を抱えながらも上手につきあい、健康状態を維持することで、幸福な生活につなげることが目指す姿と考えられます。

## (2) 介護保険サービスの安定と充実に向けて

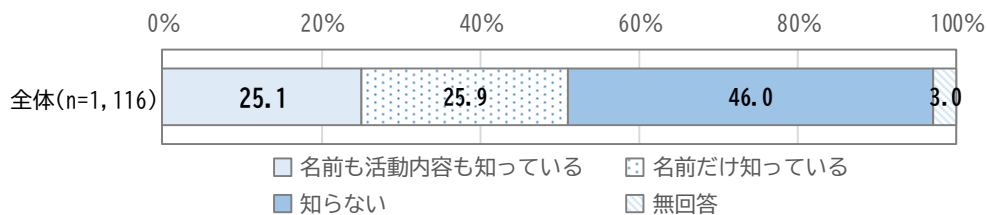
団塊の世代が75歳以上となる令和7年度を目処に在宅生活が継続できるよう、安定した介護保険サービスの提供体制の充実に努めてきました。

### ▼ 看護小規模多機能型居宅介護

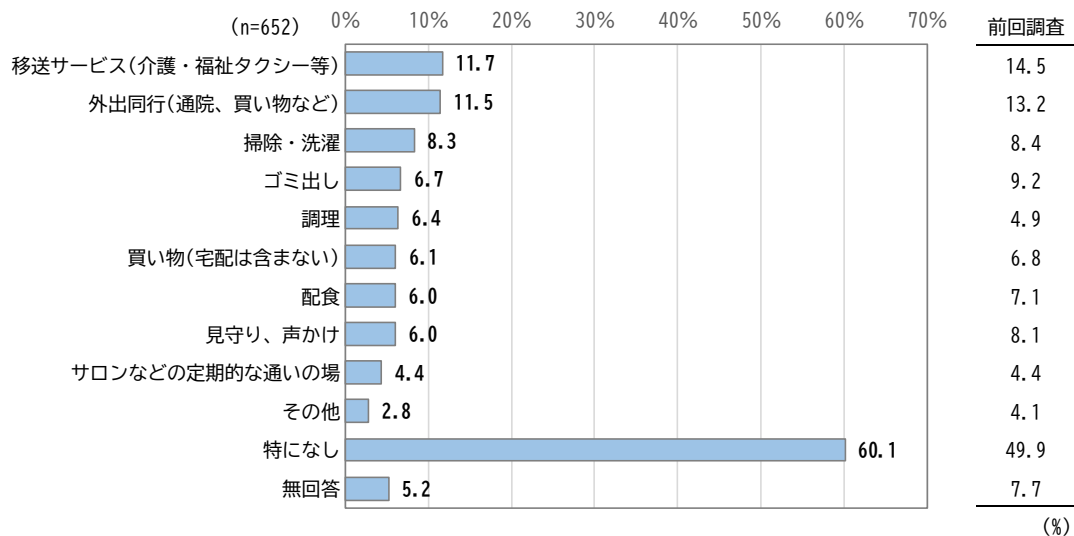
	R5 年度目標数	R5 年度見込	達成状況
事業所数	1カ所	1カ所	★★★★★
登録人数	25人	25人	★★★★★

### ▼ アンケート結果

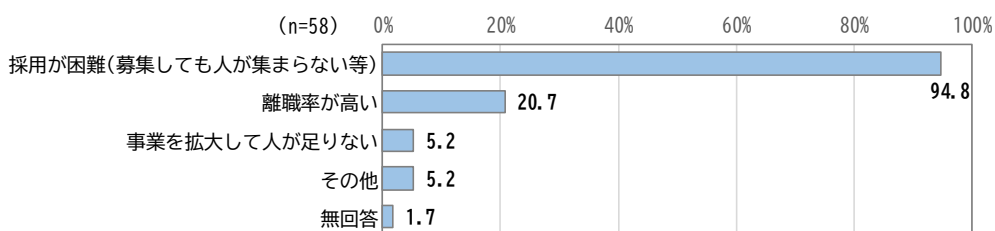
#### ○地域包括支援センターの認知度



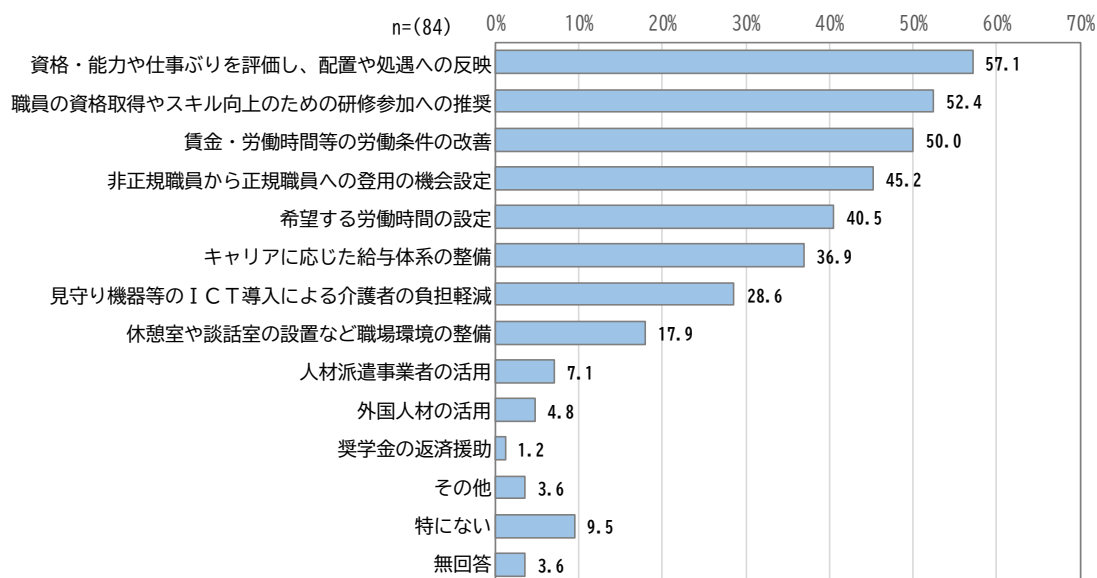
#### ○今後在宅生活の継続に必要な支援・サービス



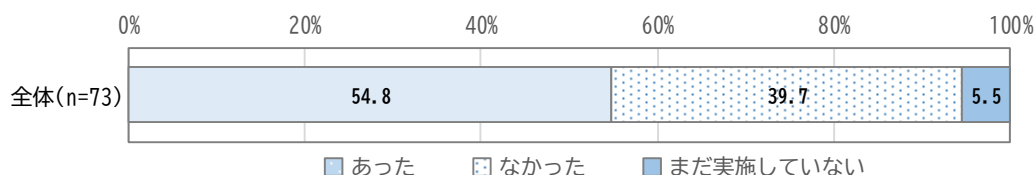
#### ○職員の不足理由



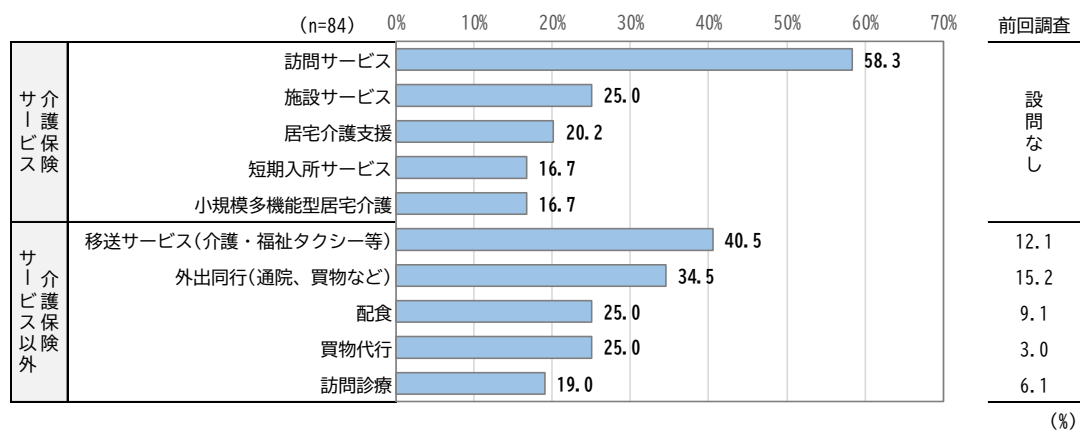
### ○人材確保のために取り組んでいること・取り組む予定のあること



### ○人材確保のための取り組みの効果



### ○事業所が不足していると思うサービス（上位抜粋）



### 【成果と課題】

- ▶ 看護小規模多機能型居宅介護を設置することにより、医療需要の高い人の在宅生活を支える体制の充実を図ることができました。
- ▶ 事業所調査では9割が採用困難を選択しており、前回計画策定時より人材確保の困難な状況が進んでおり、人材確保にむけた取り組みが急務となっています。
- ▶ 事業者が不足していると感じるサービスは訪問介護と移送サービスであり、在宅介護を支えるうえで、今後の検討が必要な事項となります。

### (3) 地域での支え合いづくりに向けて

介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、高齢者を地域全体で支えていくことや一人暮らし高齢者世帯等への支援の充実に努めてきました。

#### ▼ 高齢者たすけ隊・見守り隊の協力事業所数

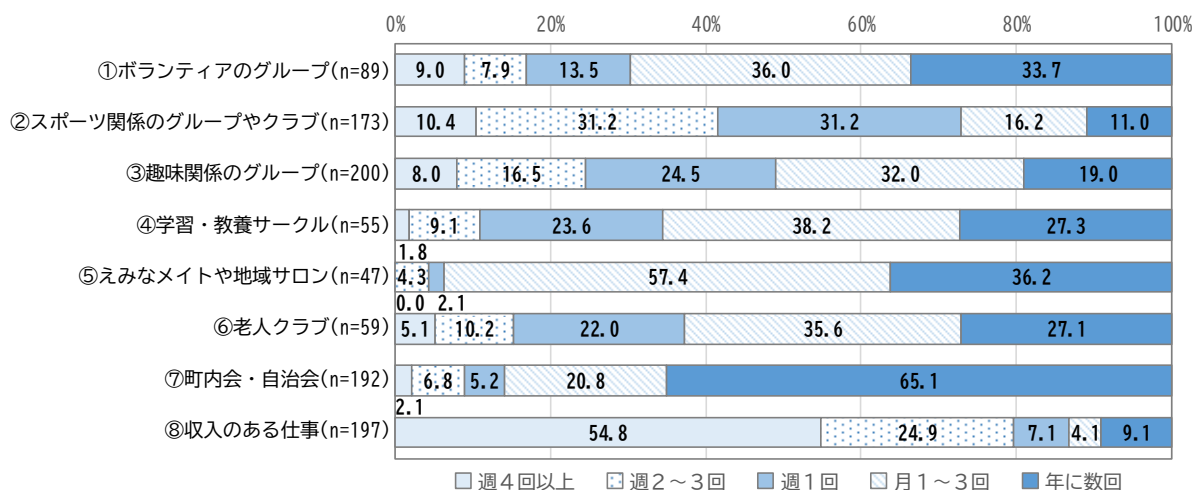
	R5 年度目標数	R5 年度見込	達成状況
協力事業所数	280 事業所	260 事業所	★★★★★

#### ▼ 一人暮らし高齢者世帯等への支援

	R5 年度目標数	R5 年度見込	達成状況
緊急通報システム設置件数	408 件	381 件	★★★★★
鍵の保管先登録件数	255 件	205 件	★★★★
緊急情報記録票配布件数	1,380 件	1,013 件	★★★★

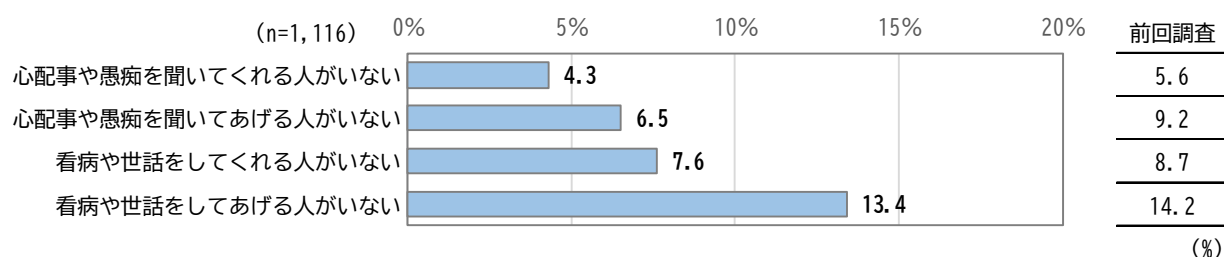
#### ▼ アンケート結果

##### ○ 地域での活動への参加



※参加している人のみを対象とした集計

## ○たすけあいについて



### 【アンケート結果からの孤独・孤立に関する抜粋】

○閉じこもり傾向がある方 **23.3%**

○地域活動は一人暮らしの高齢者の方が参加率が高い

○心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない方

85歳以上が8.8%、一人暮らしの方が8.2%と全体に比べて高くなっている

○看病や世話をしてくれる人がいない方

一人暮らしの方が21.7%と最も高く、85歳以上の方が12.2%と最も高い

### 【成果と課題】

- ▶ 地域での支え合い支援として、社会福祉協議会との連携、高齢者たすけ隊・見守り隊の活動、地域支えあい情報ネットワークでの情報共有、町会や老人クラブ、ボランティアなどの地域づくりを推進してきたが、人口減少と高齢化による担い手不足が懸念され、支援する側のサポート体制が必要です。
- ▶ 高齢者の孤独・孤立も社会問題化しており、アンケートの調査結果からも一人暮らしや高齢者が高い傾向があるため、関係機関と連携して、支える仕組みづくりが必要です。
- ▶ 地域包括支援センターが中心となり複雑な問題を抱える高齢者と家族が、必要な支援に結びつくよう手助けしています。年代にかかわらず介護者（ケアラー）への支援が求められますが、関係機関の連携して継続した取組が重要です。

#### (4) 認知症との共生と予防に向けて

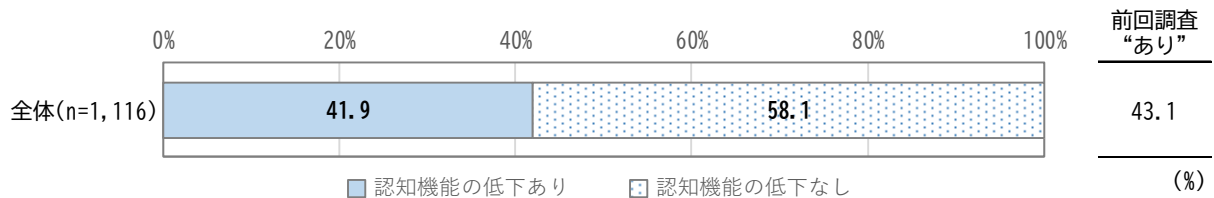
認知症の人ができる限り地域のよりよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、認知症の予防とともに、見守り支える支援体制の強化に努めてきました。

##### ▼ 認知症サポーター養成講座

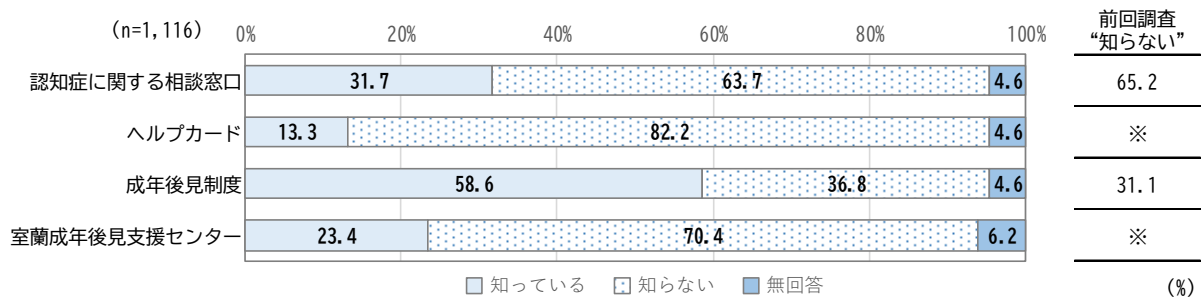
	R5 年度目標数	R5 年度見込	達成状況
延講座数（累積）	378 回	339 回	★★★★★
延人数（累積）	9,821 人	9,347 人	★★★★★

##### ▼ アンケート結果

###### ○ 認知機能の状況



###### ○ 各種認知度について



##### 【アンケート結果からの抜粋】

○一人で何ができなくなった時、今のすまいに住み続けることができないと思うか

「物忘れがひどくなり、周りに迷惑をかけるようになった時」6 割

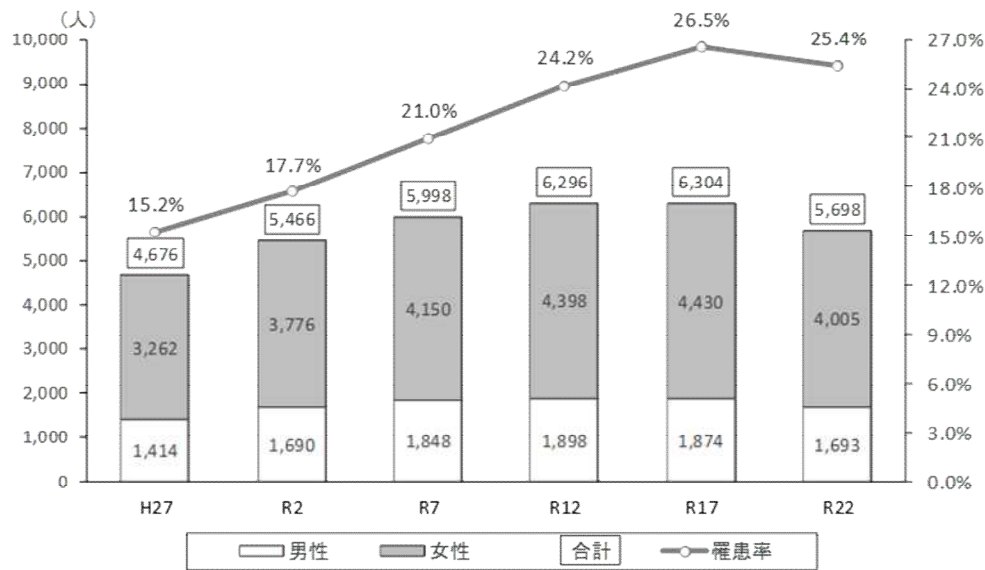
○今後力を入れるべき施策

「寝たきりや認知症にならないための介護予防を進める」3 割

○介護者が今後不安な介護

「認知症状への対応」3 割

## ■ 第8期計画策定時の認知症高齢者数の推計



## ○ 認知症の本人と介護者へのインタビューから抜粋

### 【認知症の本人の思い】

- 「今住んでいるところにずっと住みたいのが願ひ」
- 「このまま生きていたい。親しい人に会って話をしたい」
- 「出かける機会がもう少し増えたい」「知り合いとのつながり、人とのつながりを続けたい」

### 【認知症の人の家族の思い】

- 「このまま家で一緒に過ごしたい」
- 「怒鳴られた時などはどうしようかと思っていたが薬で落ち着いた」
- 「いなくなった時に届けられる仕組みがあったらありがたい
- 「本人にサービスを利用することに慣れてもらい旅行に行きたい」

## 【成果と課題】

- ▶ 認知症サポーター養成講座は新型コロナウイルスの影響から開催数が減少する一方、コロナ禍のため Web を利用した開催の方法が広がりました。
- ▶ 認知症予防教室を実施し、ファイブコグテスト（軽度認知症スクリーニングテスト）の維持改善や終了後えみなメイトへやボランティア活動等の社会参加に繋がりました。ニーズ調査では認知機能の低下の該当者が4割あり、予防対策が重要です。
- ▶ 本人や家族の思いを聴くことや社会参加の機会の創設が課題です。
- ▶ 認知症地域支援推進員が中心となって認知症ケアパス（認知症早わかり便利帳）の改訂版を発行し普及啓発に努めていますが、相談窓口やヘルプカード、成年後見支援センターの認知度は低い状況です。オレンジカフェやアルツハイマー予防月間のイベントなど身近な機会を利用した取り組みの継続が求められます。



## (5) 安心できる生活環境に向けて

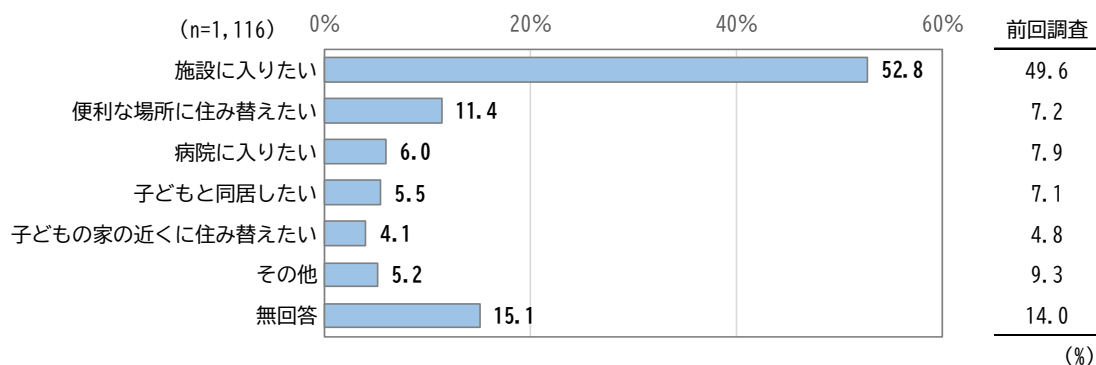
人口減少と高齢化が進む中、高齢になっても安心して住み続けられるよう、多様な住まいの確保や高齢者が地域の中で生きがいを持って生活できるような環境づくりに努めてきました。

### ▼ 生きがいづくりの推進

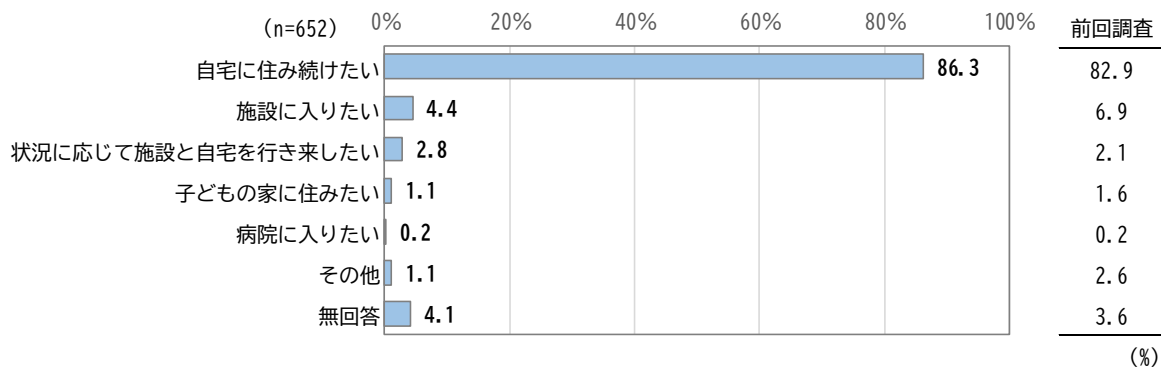
	R5 年度目標数	R5 年度見込	達成状況
生涯学習センター	8 講座 14 同好会	8 講座 13 同好会	★★★★★
悠悠ライフ	6 講座	6 講座	★★★★★
老人クラブ	46 団体 2,171 人	35 団体 1,439 人	★★★★★
市民活動センター	23 講座 展示 21 回	23 講座 展示 21 回	★★★★★

### ▼ アンケート結果

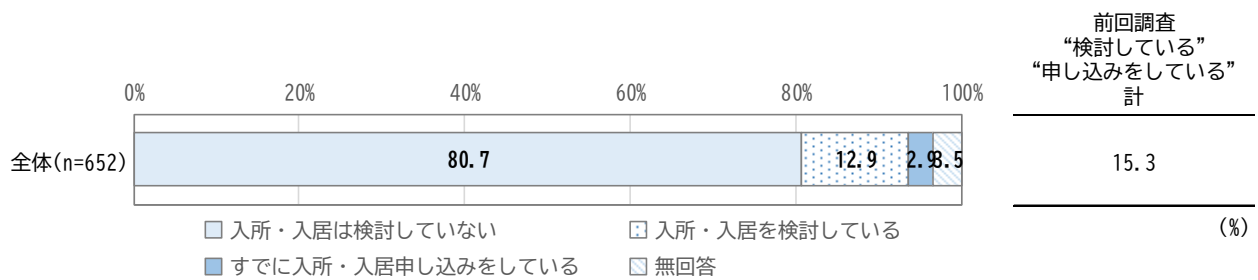
○今の住まいでの生活が難しくなった時、どこで生活したいか



○今後どこで生活したいか



○現時点での施設等への入所・入居の検討状況



○ 移動支援の推進

・ワンコインパス事業

令和2年7月より実証期間を設け、利用状況や効果を検証し、令和5年7月より本格導入し高齢者の外出支援の拡充を実施し、高齢者の社会参加、介護予防、閉じこもり防止に努めています。

・運転免許証自主返納助成事業

高齢ドライバーの交通事故防止や免許返納後の外出支援も課題であったことから、ワンコインパス導入にあたり、免許証自主返納者は、ふれあいパス又はワンコインパスの初回購入分を全額助成を行い、免許返納の促進に努めています。

・Maas 事業

スマートフォンやタブレット等、ICTを活用した誰もが移動しやすい新たな交通サービスの提供に向け、産学官民が連携し、AI オンデマンド交通や、買い物連携型相乗りタクシーなどの実証実験に取り組みました。

【成果と課題】

- ▶ 多様な住まいを確保することを目的に、高齢者に配慮した市営住宅の整備1棟、サービス付き高齢者向け住宅1施設に対し整備のための助成金の交付を実施しています。
- ▶ 今後も自宅に住み続けたい人は8割を超えており、自身での生活が難しくなった際は施設に入りたいと考えている人は多く、どちらも前回計画策定時よりも増えています。
- ▶ 生きがいづくりのため各種講座を継続した他、生涯学習センターきらん、図書館科学館、体育館など高齢者も利用しやすい公共施設が整備されました。
- ▶ 高齢者の外出支援事業として、ワンコインパス事業、Maas 実証事業、運転免許証自主返納助成事業を拡充して実施し、高齢者が社会参加しやすい環境づくりに努めました。
- ▶ 要介護者等災害弱者の避難を支援するために、避難行動要支援者名簿を作成し、地域の自主防災組織と連携し「個別避難計画」の作成に着手しています。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症への対策として、予防接種を実施し、重症化ハイリスクの高齢者を守る対策を講じました。

## 3. 基本理念

### 総合計画

室蘭が好き。みんなが創る、住み続けたいまち

～まち ひと みなとが未来を創る～ 計画期間：2020年～2030年

#### 【第5～8期計画基本理念】

**高齢者が、健康でいきいきと、  
住み慣れた所で暮らし続けられるまち**

介護保険法の理念である「自立支援」「重度化防止」の考えに加え、第5期計画から「地域包括ケア」の推進を含め、上記の基本理念を掲げ、第6期から第8期までこの基本理念を踏襲してきました。基本的な考え方に変更はないものの、現在の高齢者の感覚に寄り添う表現になっているか、目指したい姿が表現できているかなど、検討が必要と考えます。

#### 【他市の例】

- ◇ アクティブエイジング（横浜市）
- ◇ ふつうに暮らせる幸せ well-being（豊明市）
- ◇ 生涯現役社会の実現につながる社会参加の拡大（札幌市）
- ◇ かがやいて、生涯現役 のびやかな人生が息づくまちをつくる（登別市）